

OITA
NAKAMURA
HOSPITAL

社会医療法人恵愛会
大分中村病院

〒870-0044
大分市舞鶴町一丁目4番1号
TEL 097-536-5050
FAX 097-573-8030

大分中村病院広報誌『よりそう』vol.26
2025年冬号（2025年1月15日発行）
発行責任者/中村太郎
編集担当者/経営支援課（綾木）



病院HP

ご自由にお持ち帰りください

大分中村病院広報誌 TAKE FREE

よりそう
YORISOU

OITA
NAKAMURA
HOSPITAL

vol. 26
2025 冬号

目次

- P3. 新病院で初めての火災訓練
九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練に参加しました
- P4. 大分県障がい者スポーツ協会スタッフを対象に
BLS研修会を行いました
大分国際車いすマラソンヘメディカルスタッフ&
救急車を派遣
- P5. JICA障害児スポーツ普及活動のためにペルーへ
吉川忠英アコースティックライブを開催しました
- P6. 2024年度入院患者満足度調査 結果報告
- P7. 病院からのお知らせ

特集

年頭所感



年頭所感



理事長
中村 太郎



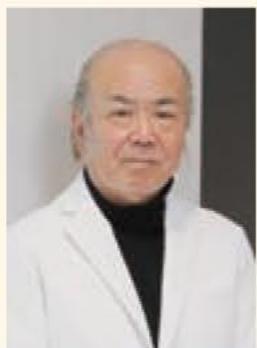
地域の暮らしを支えていく一翼に

新年あけましておめでとうございます。
2024年の元旦に舞鶴町へ移転して、あっという間の一年でした。最初の一年を無事運営できたのも皆様方のおかげと感謝申し上げます。一方で解体の進む大手町の旧病院の前を通るたびに一抹の寂しさを感じます。

さて、今年は昭和100年です。私は昭和35年の生まれなので、太平洋戦争が終わって、15年ほどしか経っていない時に生まれました。当院の創設は昭和41年、今年で59年目を迎えます。設立時は日本がまさに戦後の高度成長期に入ろうという時期で若年者の交通事故、労災による外傷が多発増大しました。

そして現在は人口減少少子高齢化社会が進行中です。時代とともに求められる医療も変わって行きますが、「病気だけでなく本気で、人間と向き合う。」という「こころざし」からぶれることなく、救急とリハビリテーションを二本柱に他の医療介護機関と協働し、地域の暮らしを支えていく一翼を担っていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



病院長
七森 和久

顔の見える地域連携の強化を

新年あけましておめでとうございます。
2025年を迎える、昨年移転した新病院も1年を経過し、地域医療において確かな足場を築くことができました。これもひとえに皆さまのご支援と信頼のおかげと深く感謝申し上げます。

当院は「病気だけでなく本気で、人間と向き合う。」をこころざしに、二次救急医療とリハビリテーションの両輪で地域包括ケアの中核としての役割を果たして参りました。今年はさらに顔の見える地域連携の強化に取り組み、多職種が連携する医療体制の実現を目指します。新しい土地でも変わらず、地域の皆さまの健康と安心を支える存在であり続けるよう全力を尽くして参ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



新病院の火災対策

新病院に移転して初めての火災避難訓練を行いました。

その前段の研修として、11月27日の災害勉強会では外来フロアと病棟のそれぞれ防火設備の見学ツアーを実施し、消火器・消火栓の場所や排煙装置のレバー、防火扉の操作方法について実地研修を行いました。



防火設備の見学ツアーの様子

そして29日の避難訓練では、夜間に病室のコンセントから出火した想定で患者さんを避難・



左) 病室のコンセントから出火した想定 右) ベッドでの患者避難

搬送訓練を実施。自立して歩ける方からベッドごと移動させねばならない患者さんまで、様々な状態を想定しました。

新病院での通常業務は慣れたものの、非常時の設備を実体験するのは初めての職員も多く、誘導ランプや火災報知機の誘導音など、戸惑いも見られ、他の周辺機器の影響など発見が多く、実りある訓練ができました。

今後とも患者さんの安全・安心な療養環境の維持確保につなげていきます。

九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練に参加しました

九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練が11月23日から24日にかけて長崎県で行われ、当院から医師1名、看護師2名、業務調整員3名の計6名が参加しました。

この訓練は過去最大規模の降雨と強風・河川氾濫・土砂災害が発生し、医療機関のライフラインが浸水により壊滅的な被害を受けた想定で行われました。

当院チームは長崎医療センター内に設置された活動拠点本部にて、本部の運営、後続のDMATチームの管理、患者さんの搬送調整など多岐にわたる演習に参加しました。

大分県で同様の大規模災害が発生した場合、当院は大分川沿いのため水害・浸水被害の対応

と並行して、県庁に設置されるDMAT調整本部での活動も視野に入れておく必要があります。今回の訓練を通じ、受援と支援の両面に備える重要性を改めて認識することができました。

(総務部 河野)



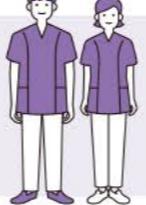
大分県障がい者スポーツ協会スタッフを対象にBLS講習会を行いました

10月26日に大分県障がい者スポーツ競技会スタッフを対象に「支援に役立つ救急法」と題したBLS講習会を行いました。BLSとはBasic Life Supportの略称で、心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のことです。パラスポーツ現場の第一線で活動しているみなさんの学ぶ姿勢はとても真剣で、いかなる時でも確実に対応できるようにという熱意にこちらも身が引き締まりました。

BLSは様々な段階を経て救命措置を行いますが、中でも心肺蘇生のための胸骨圧迫は想像以上に体力を使います。「実際に体験してみてよかったです。多くの人に講習を受けてほしいと思った」と感想をいただきました。（リハビリテーション部 黒田）

講師派遣します！

当院ではBLS講習会を2009年から継続して開催しており、今回で123回目を数えます。過去に学校や公共交通機関・企業で働く皆様それぞれに合わせた講習会を実施してきました。講師派遣も承りますので、お気軽にご相談ください。



大分国際車いすマラソン メディカルスタッフ&救急車派遣

当院の創設者・中村裕が発足した大分国際車いすマラソンの第43回が、11月19日に開催されました。

当院からは医療サポートとしてリハビリテーション科医師、医務担当として看護師2名、今年導入した病院救急車を医務車として派遣しました。

走行中に選手がケガや体調不良を起こした場合、スタジアム内の本部から医師が遠隔で状態を確認し、指示を出しています。医師は同時に多発的に報告されてくる状況を、的確に無線で処理していました。ゴール付近ではスパートをかける選手同士の接触も多発するため、医療チームが速やかにケガの状況を確認し、適切な処置を行いました。

当院は今後ともパラスポーツ振興の一助となれるよう、医療面で支援を続けていきます。



だれもが スポーツのチャンスを つかめるお手伝いを

左)現地の子供たち
右)国際障害者デーにおける
スポーツ大会の様子

11月28日から12月5日の約一週間、JICAが主催する「ペルーにおける障害児スポーツ指導力強化および普及促進プロジェクト」の一員として、ペルー・リマ州での現地活動に参加してきました。

パラスポーツは世界的にも認知度が向上していますが、障がい児への普及やリハビリへの介入はまだ発展途上にあります。このプロジェクトは2022年2月からペルーの「日本・ペルー友好国立障害者リハビリテーションセンター（INR）」と大分県理学療法士会のスタッフが連携しながら実施してきました。

これまでINRでの現地調査や、医師・理学療法士らを大分・別府に招聘し太陽の家や大分県障がい者スポーツ大会見学、施設見学を行い、その後はオンライン上で遠隔指導等を重ねてきました。

これまでINRでの現地調査や、医師・理学療法士らを大分・別府に招聘し太陽の家や大分県障がい者スポーツ大会見学、施設見学を行い、その後はオンライン上で遠隔指導等を重ねてきました。

その次の段階として、新たな課題や調査を行うべく大分県から4名のスタッフがペルー・INRへ向かいました。

滞在中はこれまでの成果報告を政府機関や患者家族を対象に行ったり、12月3日の国際障害者デーにINRスタッフと一緒にスポーツ大会を開催しました。

現地の皆さんとの意見交換・交流を重ね、プロジェクト開始当時よりパラスポーツに参加する障がい児が増え、ご家族やスタッフの理解も広がっており、活動の手ごたえを感じました。

日本と違い、ペルーの首都リマ州でさえインフラ整備も不十分であり、貧富の差によって国民が分け隔てなく医療を受けられるわけではありません。

そのような国家間の環境の差はあれど、今回のような草の根的活動を続けることで、障がい児も含めだれもが適切な医療を受け、だれもがスポーツのチャンスをつかめるような手伝いをこれからもしていきたいと思います。



INR見学の様子

吉川忠英アコースティックライブを開催しました

11月24日に新病院移転を記念し、職員限定で「吉川忠英アコースティックライブ」を行いました。

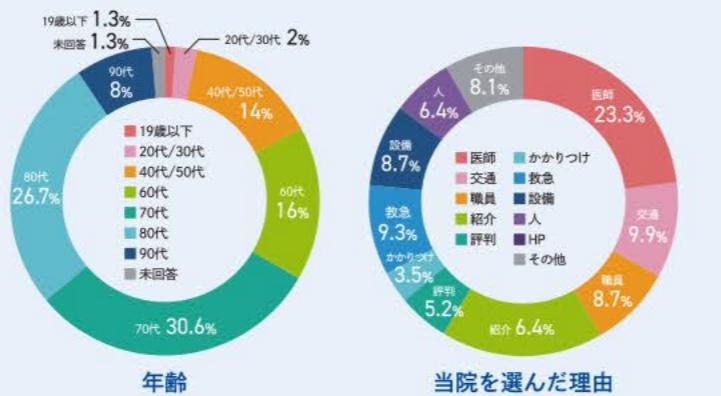
吉川氏はユーミンの歴代ヒット曲や福山雅治のレコードに参加するなど国内屈指のレジェンドギタリストです。

ライブでは参加した楽曲のカバーや、ピートルズメドレーなど有名な楽曲などインストゥルメンタルの演奏で持ち前のギターの腕前を披露。その素晴らしい演奏のみならず、気さくなトークや落語の持ちネタで笑わせるなど、とても場をあたたかく盛り上げてくださいました。



2024年度 入院患者満足度調査を行いました

■ 大変良い ■ 良い ■ ふつう ■ 悪い ■ 大変悪い



入院生活について

スタッフの対応

医師について

看護師について

リハビリテーション

患者の皆様にとってより利用しやすい病院になるために、
入院患者さんを対象に満足度調査を行いました。
ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

(CS委員会)



舞鶴町のお獅子様がやってきました

年明け1月3日に、舞鶴町青年会による「お獅子様巡回」として当院にも獅子舞にお立ち寄りいただきました。

子供たちのにぎやかな渡り拍子に合わせて踊る獅子様に、患者さんにもお正月の雰囲気を感じていただきました。



2024年度永年勤続者表彰式を行いました

12月10日、当院の創立記念日に今年度の永年勤続者表彰式を行いました。勤続5年から上は40年まで、総勢62名を表彰しました。

勤続5年	23名	勤続25年	2名
勤続10年	19名	勤続30年	4名
勤続15年	9名	勤続35年	2名
勤続20年	2名	勤続40年	1名



病院からのお知らせ

面会ルール変更のお知らせ

2024年11月より入院ルールの一部を変更しました。

なお、感染症流行時期のため面会が急遽禁止になる場合がございます。

最新情報はHP「面会について」のページをご覧ください。



主な入院・外来患者データ

(2024年9月～2024年11月)

	病棟別実績 (2024年9月～2024年11月)	病床数	稼働率	平均在院日数
新入院患者数	313人 (月平均)	40床	83.2%	10.3日
急性期病棟	• 3F 南病棟 • 4F 南病棟 • 4F 北病棟	40床	84.1%	11.5日
外来患者延べ数	5,407人 (月平均)	40床	91.9%	19.0日
紹介受入件数	262件 (月平均)	40床	93.9%	56.2日
回りハ病棟	• 5F 南病棟 • 5F 北病棟	40床	93.5%	45.1日
救急搬送件数	161件 (月平均)	地ケア病棟	89.7%	20.7日
手術件数	153件 (月平均)	病院全体	89.4%	22.9日